

第35回 市政e-モニターアンケート 「鎌倉市ふるさと寄附金制度について」 最終結果

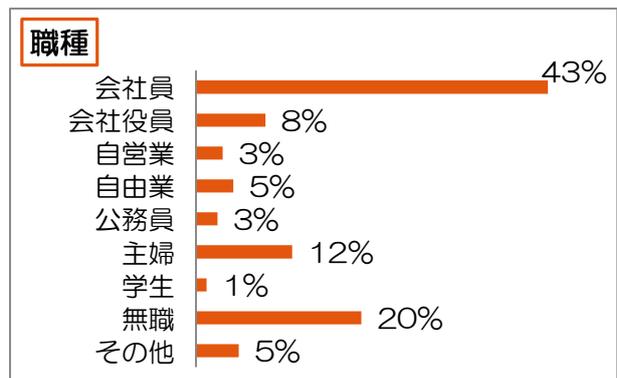
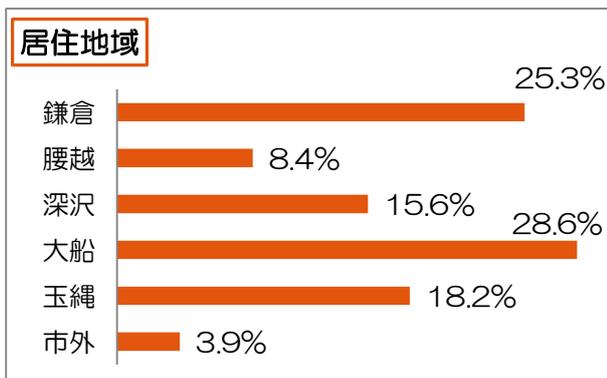
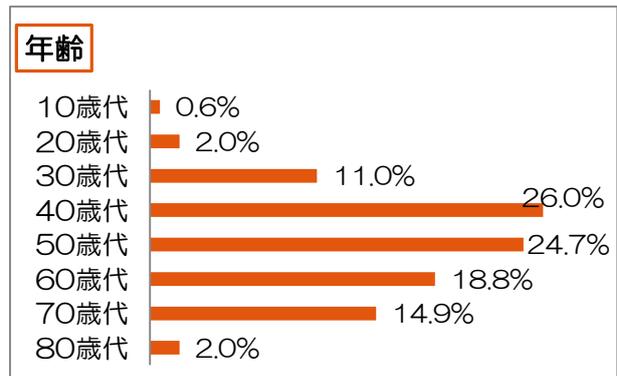
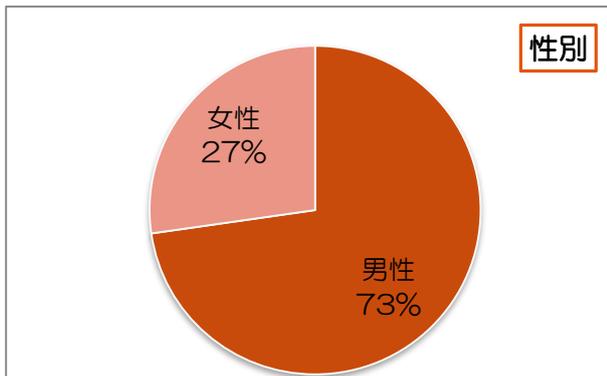
【テーマ】 鎌倉市ふるさと寄附金制度について

【目的】 鎌倉市のふるさと寄附金制度（ふるさと納税）は、昨年7月から始め、平成27年度は、約1億2,331万円の寄附をいただきました。一方、市民の皆さんが他自治体へふるさと寄附金を行った金額は約4億1,500万円で、これに伴う市民税控除額は、約1億6,400万円となりました。これらをふまえ、鎌倉市のふるさと寄附金制度について、市民の皆さんへの認知度や活用についてお伺いします。

- ◆ アンケート送信日 : 平成28年11月2日（水曜日）
- ◆ 実施期間 : 平成28年11月2日（水曜日）～11月16日（水曜日）
- ◆ 送信者数 : 422名（着信者数 406名）
- ◆ 回答者数 : 154名
- ◆ 回答率(対着信者数) : 37.9%（前回より -10.9ポイント）



【今回の回答者の基本属性】

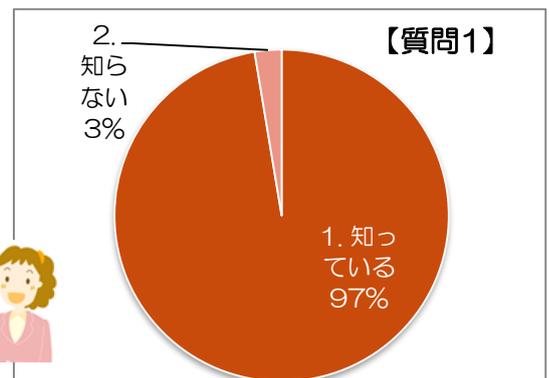


【質問1】 (必須) ふるさと寄附金（ふるさと納税）という制度を知っていますか？

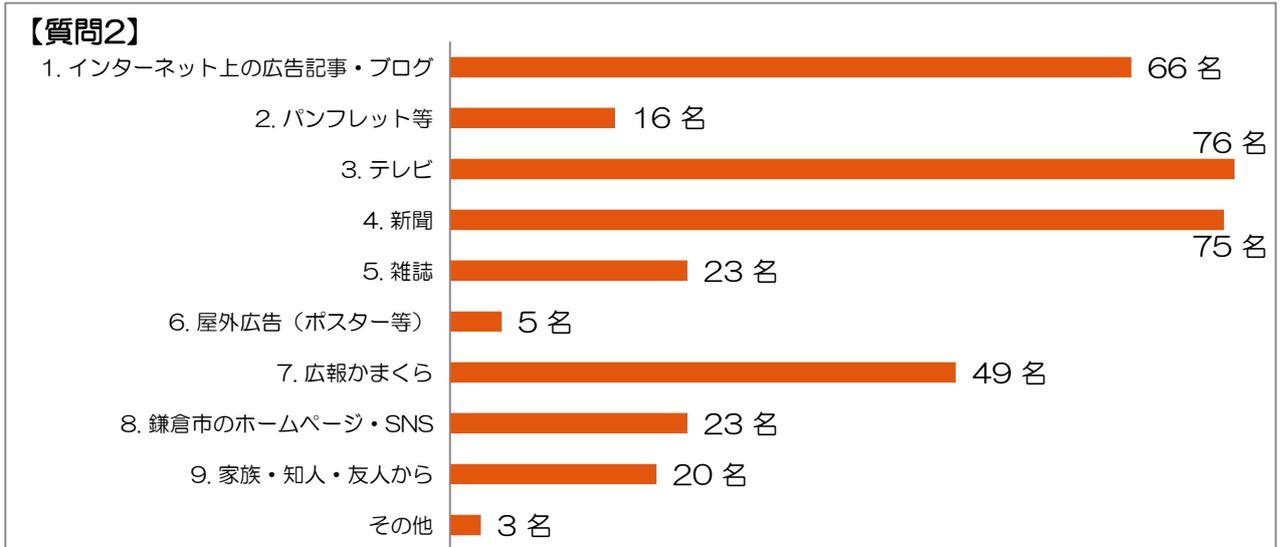
1. 知っている	150名
2. 知らない	4名

【ふるさと寄附金推進課より】

ふるさと寄附金制度については、皆さんが制度を知っておられることが分かりました。



【質問2】(必須) 【質問1】で、「1. 知っている」とお答えした方にお伺いします。ふるさと寄附金(ふるさと納税)を何で知りましたか?【複数回答可】



※その他のご意見

- 市職員の説明
- ラジオ
- 議会と議員、市議会議員HP

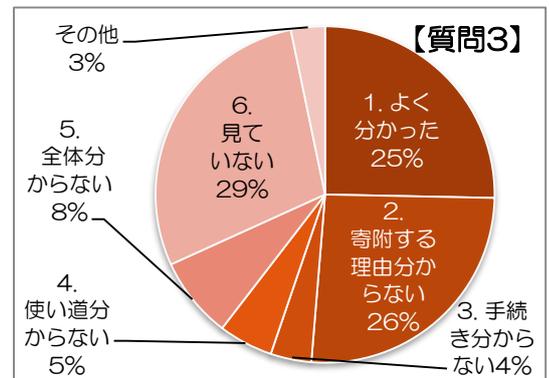
【ふるさと寄附金推進課より】

テレビや新聞、インターネットによる媒体を介して制度を知った方が多く、この媒体によるPRが効果的であることが分かりました。



【質問3】(必須) 広報かまくら10月15日号で、ふるさと寄附金(ふるさと納税)を周知する記事を掲載しましたが、その内容が伝わりましたか?

1. よく分かって伝わった	39名
2. 寄附の趣旨は分かったが、市民が寄附する理由が分からなかった	40名
3. 寄附の手続き方法が分からなかった	6名
4. 寄附金の使い道がよく分からなかった	8名
5. 全体的に分からなかった	12名
6. 広報かまくら10月15日号を見ていない	44名
その他	5名



※その他のご意見(同様のご意見は集約しています)

- 小生夫婦は九州の出身ですが、現住所の鎌倉市がふるさと(子どもの1人は鎌倉生まれ)という点に、少々、違和感があります。
- 記事を読んでいない。
- 普通に分かった。
- 控除の説明が分かりづらかった。

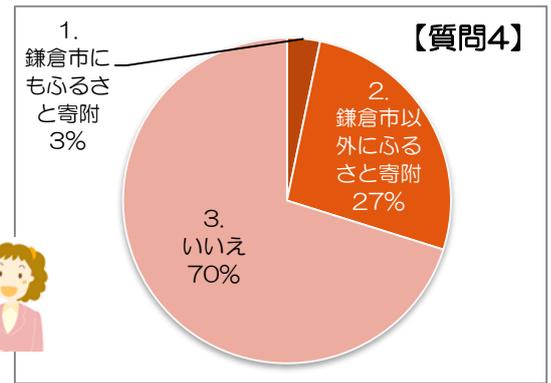
【ふるさと寄附金推進課より】

「広報かまくらを見ていない」や「市民が寄附する理由が分からなかった」との意見が多くあり、周知方法や説明について工夫していく必要があることが分かりました。



【質問4】（必須）これまでどこかの自治体に対してふるさと寄附（ふるさと納税）を行ったことがありますか？

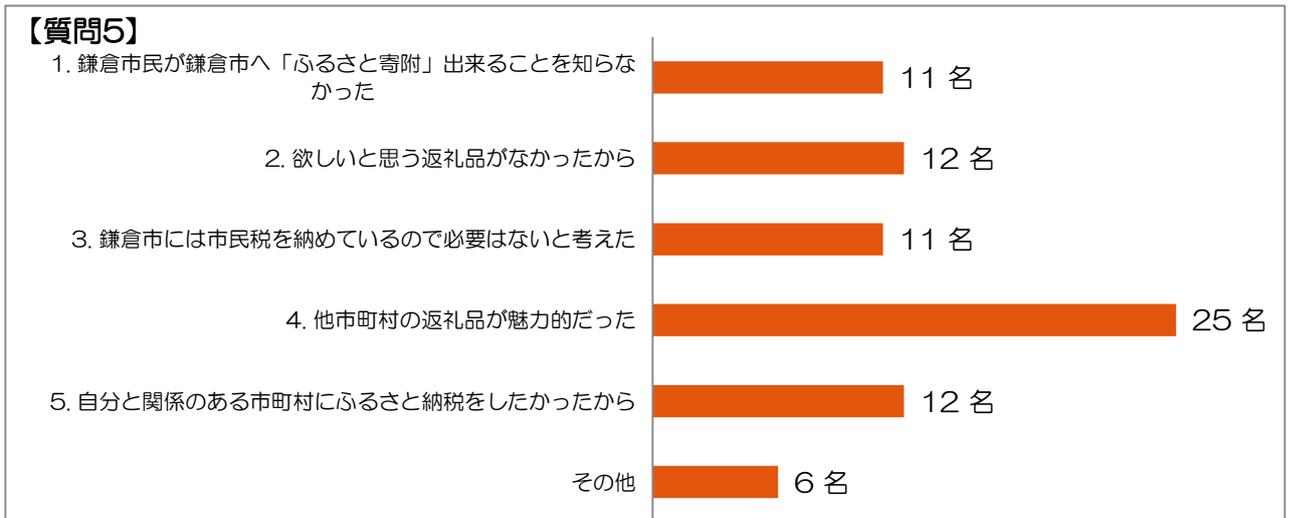
1. はい。鎌倉市にだけ、もしくは鎌倉市と他自治体にふるさと寄附を行った	5 名
2. はい。鎌倉市以外の自治体にふるさと寄附を行った	41 名
3. いいえ	108 名



【ふるさと寄附金推進課より】
ふるさと寄附を行ったことがない方が 2/3 を占めており、引き続きPR活動を通じて周知していきます。



【質問5】（必須）【質問4】で「2. はい。鎌倉市以外の自治体にふるさと寄附を行った」とお答えになった方にお伺いします。その理由をお聞かせください。【複数回答可】



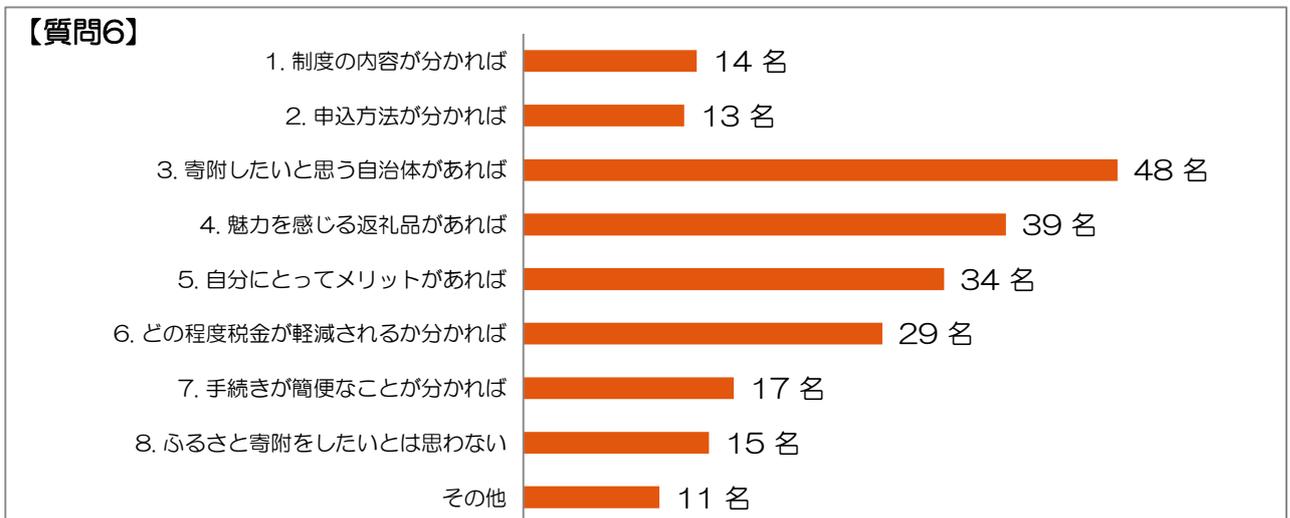
※その他のご意見（同様のご意見は集約しています）

- 水害・地震・その他で被害に遭った土地に納税した。
- 被災地支援。
- 鎌倉市の施策に納得がいかず、その反対表明として。
- 名古屋城を見学した際に、その場で、修繕費用を寄附してきた。同じようなことは鎌倉市でもできると思った。

【ふるさと寄附金推進課より】
やはり魅力的な返礼品が寄附への大きなファクターであることが分かりました。



【質問6】（必須）【質問4】で「3. いいえ」とお答えした方にお伺いします。今後、どこかの自治体にふるさと寄附（ふるさと納税）をしたいと思いますか？【複数回答可】



※其他のご意見（同様のご意見は集約しています）

- 寄附金の活用方法が分かれば。
- 寄附の使用用途が指定できるのならば。
- 寄附と言う意識ではなく、欲しい商品かで考えてしまう。
- 災害支援。
- ふるさととは鎌倉です。
- 自分の出身地である別の自治体に行く予定です。
- 買い物に興味がない。
- 制度がおかしい。
- もう少し考えたい。
- 現在手続き中。

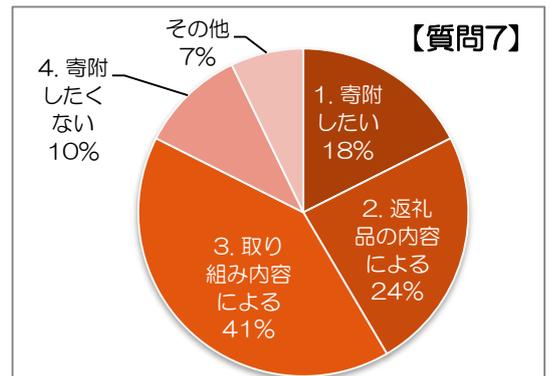
【ふるさと寄附金推進課より】

今まで寄附をしたことがない方でも動機付けがあれば、寄附するという意志があることが分かりました。この回答を参考にアプローチの仕方を考えていきます。



【質問7】（必須）鎌倉市ではふるさと寄附金を寄附者の意向に沿ったまちづくりに活用していく取り組みを行っています。今後鎌倉市へ寄附したいと思いませんか？

1. 寄附したい	27 名
2. 返礼品の内容による	37 名
3. 取り組み内容による	63 名
4. 寄附したくない	16 名
その他	11 名



※其他のご意見（同様のご意見は集約しています）

- 寄附でなく今まで通りの納税でよい。
- 住民税をふるさと納税という歪な形にするのは反対である。
- ふるさと納税以外で寄附します。
- 鎌倉市に住んでいるので、返礼とかは求めません。ただ、未だに解決しない慢性的交通渋滞や花火大会、初詣などの市民に対する配慮の無さには苛立ちを感じます。そういった整備に充てて欲しいです。
- '寄附者の意向に沿ったまちづくり'の取り組みを全く感じられない。自身は、まちづくりは普通の税収で行うべきと考える。まちづくりの取り組みに市外から寄附しようとする人は非常に少ないのでは？
- 鎌倉市の施策に共鳴したら、その施策の特定財源とするため。
- 鎌倉市民が鎌倉にふるさと納税できるということですか。普通に市民税を払うのとどう違うのか検討してから考えたい。
- 自分にとってメリットがあれば寄附する。
- わからない。
- 鎌倉市のふるさと納税についてよく知らない。



【ふるさと寄附金推進課より】

取り組み内容や返礼品の内容によっては、寄附をしていただけるという意見が 2/3 ありましたので、この方たちに寄附してもらえそうなニーズにあった寄附制度を検討していきます。

【質問8】（必須）市民の方からふるさと寄附金を受けるには、どのような取り組みが有効でしょうか？【複数回答可】

【質問8】	回答数
1. 返礼品の種類を増やす	63 名
2. 体験型の返礼品を増やす	31 名
3. 寄附金の使われ方をホームページなどで報告する	96 名
4. 「広報かまくら」でたびたび掲載する	56 名
5. 手続きが簡便であることをアピールする	51 名
その他	27 名

※その他のご意見（同様のご意見は集約しています）

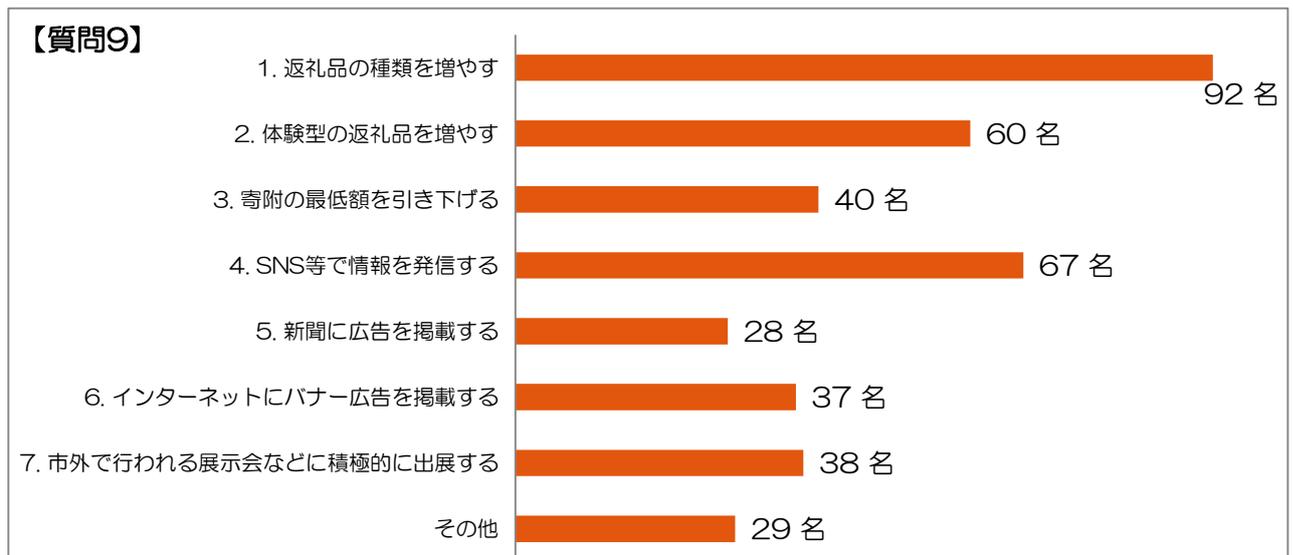
- 特に必要ない。ふるさと納税をしていなかった人が他都市にふるさと納税することになってしまう方が可能性として高いので、税などの窓口への来庁者へ営業し、その場で鎌倉市への寄附を完結させるといいと思います。
- お年寄りがインターネットを使わなくても寄附や買い物しやすくする。
- 手続きを可能な限りパソコンで自動化する。用意、参照する書類の数を減らす。特定施策、景観保護、みどりの基金指定、特定の緑地等購入など、確実に用途を指定できること。
- 寄附金の使い道を具体的に指定できるようにする。あるいはすでに指定できるのでしたら、そのことをもっと分かりやすくアピールする。
- 市民参加の行政との協働事業に寄附できる
- 小・中学校の教育に役立てる。例えば、英語、鎌倉歴史。
- 未就学児のお助けの取り組みを増やす。
- 寄附が、自分たちの暮らしの改善にどうつながっているかを明確に示すのが、良いと思います。用途を予め明示し、例えば「子育てのびのび支援」というような名目で、寄附が誰の幸せにつながっているかを伝えられれば、貢献意識が高まってくる。
- 寄附金を将来どのように活用するかを明らかにする。
- 住民サービスの専用企画への寄附というように、特定なものにしたほうが良いと思う。
- 寄附市民への具体的なメリット。
- 寄附金が増えても、寄贈品にお金がかかっては意味がない。もっと納税者のメリットを上げるべきである。
- 鎌倉市民限定の返礼品を作る。体験型も、お寺巡りで住職様の話を聞かせて頂く等、特別感が欲しい。市民が返礼品を見返りに地元へ寄附することを市が促すことには疑問。市の税制以外の方法で、地元経済・市政に貢献するお金の使い方はたくさんある。例えば、花火や流鏝馬の席を買うとか、学校に直接寄附するとか。それをあえて税制メカニズムで行うのであれば、寄附金の使われ方を明示するのが大前提。なお、このアンケートで「手続き」が簡単かどうかを質問しているが、寄附手続きのことだけを言っているのではないかと心配。寄附を考える人が知りたいのは、確定申告の際の還付手続きの方である。
- 世界遺産などにとらわれず、自信を持って歴史遺産としての鎌倉市を維持管理し、その結果と姿をアピールすれば良い。返礼品など不要だが、鎌倉市パスポートを発行し、全ての寺社・美術館を無料にする。
- 魅力的な返礼品やサービスの拡充。
- 存在自体を知らなかったなので、アピールが足りないと思う。
- 鎌倉市のふるさと納税の継続的なアピール。そもそも制度を周知する機会をできるだけ多くする必要がある。
- 鎌倉を応援したいと思わせることと、制度およびメリットを周知すること。
- 所得税や県民税を納めるより、鎌倉市に寄附した方が市民にとってメリットがあることを理解してもらえよう、継続的に訴える。
- SNSを使用したアピール。
- 本当は寄附なのだけれど、マスコミの紹介はどれだけお得かということばかりで、そこを考えて行うとお得感が一番だと思うが、市民から寄附を望むのはどうかと思う。外部からの観光でどう収入を得るかの方が、鎌倉市は大きいのではないかな。
- まちづくりの取り組みは、税収で行うべき。市民が市外へ寄附するより鎌倉市へ納税した方が得であることをいかに実行して示すかが課題であり、市民の寄附を増やすことが目的ではない。
- ふるさと納税は、自分の故郷に寄附するという考え方である。返礼品の種類が多いとか、返礼品が良いからというのは、市が商売をしているとしか思えない。
- 鎌倉市、市職員が市民のために一所懸命に働いているという現実を見せてほしい。現状ではそれが感じられませんが、縦割り無責任主義のお役所仕事をしている限り、寄附する気にはなれません。
- 市民がなにを望んでいるか、耳を傾けたことがありますか？ただ、広報に載せたりホームページに載せたりするだけで、本当に必要なものが何かわかりますか？それがわかれば納税は増えるのではないのでしょうか。
- 市政の健全化。犯罪者や反社会勢力に与する者の排除。待受体質の改善。
- 市民からふるさと納税？おかしいと思います。
- 制度の必要性を認めません。
- ふるさと寄附金制度自体が良いと思わない。
- ふるさと納税は直ちに廃止すべきである。



【ふるさと寄附金推進課より】

「寄附金の使われ方をHP等で報告する」や「広報でたびたび掲載する」などの情報周知とともに「返礼品の種類を増やす」という意見をいただきました。これは、市が現在取り組んでいる方向性と同一の内容であったため、引き続き充実できるよう取り組んでいきます。

【質問9】（必須） 市外の方からふるさと寄附金を受けるには、どのような取り組みが有効でしょうか？【複数回答可】



※その他のご意見（同様のご意見は集約しています。）

- 鎌倉にしかないモノ、鎌倉でしか出来ないコト、それが鎌倉の魅力じゃないでしょうか？それが、わかれば人を惹きつける魅力になると思います。
- 鎌倉ならではの企画を考えたい。例）鎌倉の催事に特別招待とか。
- 魅力的な（個性ある）返礼品やサービスの拡充。特に鎌倉市でないと提供できないものがよろしいと思います。
- 納税した人がまわりに自慢できるような評判が良い返礼品を出す。
- 生活必需品の品揃え。交換率を高める。
- 鎌倉やさいや、海の幸などの持ち帰りしにくいものはいいかもしれない。10,000円以下の品があった方がいいのかも。
- 何故、どこにでもあって、原材料が市外のローストビーフやプリンなのか？とも思う。地ビールも含め、特色もないのに特定企業のタイアップ的に感じる。歴史も考え、鳩サプレーや梅花はんぺんははずせないが、安い価格で鎌倉彫や、観光客を呼び込む観光周遊券みたいなものがあると良い。
- 観光で生きる自治体なので、来て、見物して、体験し、消費してもらうきっかけとなるものの開発が必要。
- ホテルやお寺と提携して宿泊体験型にする。
- 鎌倉への旅行を容易にする例：宿泊や交通の利便性。
- 世界遺産などととらわれず、自信を持って歴史遺産としての鎌倉市を維持管理し、その結果と姿を、アピールすれば良い。返礼品など不要だが、鎌倉市パスポートを発行し、全ての寺社・美術館を無料にする。
- 季節や月ごとに鎌倉らしさを自動で送ってくるようにする。
- 思い出になる情報を発信する。
- 寄附金の使われ方をもっと具体的に発信する。また、寄附してもらったら、座禅や写経、精進料理教室、宿坊体験など鎌倉の文化も体験できると面白いと思う。
- 寄附者のメリット及び使われ方の具体的な成果。
- 市外の人に対しても使い道を示すのはどうでしょうか？鎌倉の魅力である文化財や自然を保全するための資金に使うことを明言することで、自分たちが古都鎌倉に貢献している意識を高める。
- 用途を限定。
- 寄附金が鎌倉市の景観や街並みに役立つことをアピールする。
- 申し込み方法を簡単に、減税額、明瞭なら。
- 毎月寄附を行い、合計金額で返礼品などが決まる仕組み（寄附金の分割払い）。
- 観光客の目につくアピールと観光客が欲しがるとなる返礼品にする。乗車券、能楽やなかなか入れない所を回る特別感のあるツアーなど。
- 鎌倉と所縁の深い各地域と連携する。
- プレス向けに都度発信が必要。
- テレビなどで取り上げてもらえるような機会を設けたり、制度内容の充実を図る。
- 鎌倉市のふるさと納税の継続的なアピール。
- 市の職員が地域住民のためにもっと汗をかいて働いてください。そうすれば寄附しようという市民が増えます。
- 出来ることはなんでもやり、出来ないことを作らない発想が必要なのではないかしら？

- ふるさと納税は、自分の故郷に寄附するという考え方である。返礼品の種類が多いとか、返礼品が良いからと言うのは、市が商売をしているとしか思えない。
- 制度の必要性を認めない。
- ふるさと寄附金制度自体が良いと思わない。
- ふるさと納税は直ちに廃止すべきである。
- 鎌倉は市外から受けなくてよい。

【ふるさと寄附金推進課より】

予想どおり返礼品の充実や情報発信の重要性のご回答をいただきました。引き続き新たな返礼品の開発や種類を増やすとともに、SNS等で情報発信を行っていきます。



【質問10】鎌倉市のふるさと寄附金制度について、ご意見やご提案がありましたらご記入ください。【自由記載】

(※同様のご意見は、集約しています)

【ふるさと寄附は出身地に】

- 寄附したいと考えるなら、やはり出身地にしたいと思います。
- ふるさと寄附金制度にはそもそも賛成はしていませんが制度がある以上、生まれ育った貧乏な福〇県に感謝を込めて少額ながら納税をしました。もちろん返礼品に魅力を感じての事もありますが、鎌倉市には残念ながら、私には魅力を感じません。それと40年以上に渡って市民税を納めてきましたので、無職の身には今更という気持ちで、ボランティアなど違う形で貢献できればと考えています。

【返礼品について提案】

- どこから入ってくるか、ふるさと納税の集約サイトが主でしょう。返礼品を増やすしかないかと。
- 返礼品にもっと鎌倉らしい魅力あるものを作る（名産品など）。
- 返礼品の競争に加わるべきではないと思うが、鎌倉らしい返礼品を用意、充実させることは心掛けるべきだと思う。また、ふるさと寄附をした人が、それだけでなく鎌倉へ足を運んでもらえるような施策も検討してもらいたい。
- 決して安くはない住民税を払っているものとして、ふるさと納税は「節税感」を与えてくれる数少ない防御であり、攻撃手段です。その意味ではもっと多くの納税者が、ふるさと納税の特典を知るべきだと思っておりま。事実、機会あるごとに人にふるさと納税のメリットを紹介しています。鎌倉市以外の市町村への寄附をするのは、自分の自治体の返礼品の内容をよく知らない、そもそも地元で魅力的な返礼品があるイメージがない、というのが正直な感想です。でも考えてみたら、鎌倉ならではの「返礼金」はいくつも思いつきます。例えば、寺社仏閣の「年間利用券、鎌倉ガイド付き親子ツアー」同時に4年後のオリンピックに備えて、この「ボランティアツアーガイドの育成教室」も、返礼金の対象品目に加えてはどうでしょうか。私はすぐに寄附します。
- 返礼品として、JRを除く「市内乗り物1日フリーパス券」を市内の観光マップとセットで10名分とか「こじられた飲食店」の食事券（ペアで）など、鎌倉に来る人のニーズを具体化するようなものを入れる。
- もっと生活に身近なものを特産品に採用してほしい。例えば、鎌倉には鎌倉やさいが有名なもののひとつとしてあるので、野菜の詰め合わせを採用してもらえれば、注目が高まると思う。また鎌倉には有名なお菓子が多いので、ぜひとも特典に採用してほしい。
- 鎌倉へ観光しに来てもらえるような、市内限定の商品券や七福神巡りの手形などを用意しても、面白いと思います。
- 地方交付税に頼っていて税収の少ない、しかも高齢化が急速に進んで歳出が増加、財政が厳しい”鎌倉市”です。もっともっとPRをして返礼品も充実させて、ふるさと納税をしようと思える企画を作ってください。座禅、鎌倉彫、鎌倉裏街道ハイキング、精進料理教室など体験型返礼品とか腰越漁港直送鮮魚、鎌倉甘味詰め合わせセット、鎌倉やさい詰め合わせセットなどどうでしょうか。
- 鎌倉市の資金源として、より重要視して取り組んでいただきたい。小学生の子どもを持つ親として、教育現場への投資が圧倒的に足りないと感じている。小学校はトイレが古くて壊れても「資金がない」とすぐに修理してもらえず、天井も廊下もボロボロ。未来を担う子どものためにハードもソフトも投資は必要。「なりふり構わず資金を集める！」くらいの気合いをもって、ふるさと納税の返礼品を考えるべきではないか。
- 市外からの手軽な寄附案として、5,000円で「鎌倉文学館・錦木清方記念美術館・鎌倉国宝館の年間パスポート各3回まで」と「カレンダー」はどうでしょうか。
- 鎌倉ならではのもので、特にあまり有名でないものにもスポットを当てるのはどうでしょうか？個人が作成している工芸品など、鎌倉には多様なものがあることが特徴かと思います。大変とは思いますが、より多くの選択をできるようにすることで、他の自治体との差別化ができるかと思います。
- 寄附の見返りに注目が行き過ぎて、品物目当ての寄附が多い気がする。品物は基本的には2,000円程度で良いと思います。

- ネット上でまとめているサイトなどたくさんありますし、ふるさと納税をする人は情報収集に熱心ですので、新聞などのメディアは必要ないと思います。魅力ある返礼品を用意し、HPなどで見やすく提示することが最短コースでしょう。
- 寄附金制度は、もともと返礼品が目当てではないのに返礼品を目玉にするやり方に違和感がある。寄附の有効性、ユニークな用途を明確にしていくことがまず第一。とは言っても各所で返礼品が目玉されているのが現状なので、鎌倉市の地場産業やNPOの生産品、体験型の返礼品がもっと増えてもいいと思います。
- 周囲で他自治体へ寄附している人は、寄附目的よりも返礼品に魅力があってやっている様子。自分もやるとしたら同じ目的だろうと思う。寄附をするほど家計に余裕があるわけではないので、普段の生活が助かったり、少し豊かに感じられるような「もとがとれる」返礼品のある自治体に寄附するだろう。地元鎌倉であれば、寄附が本当に役立てられるならできる限りしたいと思うが、返礼品はきつといつでも手に入るものだし、あまりあてにはしない。体験型の返礼品は、市外の寄附者にとってどのように映るかわからないけど、市民にとってはあまり嬉しくないのでは。

【用途について提案】

- 寄附金の使い方として、鎌倉を良くするための市民活動や次世代の育成教育などの補助や市外からの観光客などのもてなしなど、いかがでしょうか。
- 世界遺産登録失敗の反省からも、歴史と景観復興、開発抑制に資する施策を明確にし、その財源のための寄附であることを明確にすべきだ。
- 寄附した行先が明確にわかるとよい。また寄附しようと思える継続的なパトロンの意識を持ってもらう方法を考える。少額でも継続的に受け付けられるような仕組みを作る。
- どうしてもふるさと寄附金制度を実施したいなら、市民の検討委員会を作り、寄附金による活動を市民が実感できるようにしてほしい。
- 出遅れた感が強い。市民税が実質持ち出し状態になって初めて気づいたという印象。他の市町村と比較して過疎地域でもなく、市の財政もそれなりに維持出来ているので切迫感がないが、今後さらに流出が進む事を防止する目的でも推進せざるを得ない制度だと思う。文化財保護、景観維持、観光資源の整備、このあたりを目的にすれば一応大義はたつ。そのあたりは近隣の自治体よりはやりやすい環境なのか。
- 市外の方には鎌倉のファンになっていただくことを念頭に入れて、アピール方法を考える。寄附金の用途を明確にすることが大切。
- 子どもの生活環境向上につながる項目を用途として入れてほしい。
- 広報がまくらで公表されたH27年度寄附実績と用途別状況の記事について、用途別の寄附金が、用途別予算全体の中で何%程度を占めるのかについて（集計が困難かも知れませんが）開示されれば、寄附した人の参加意識が高まると思います。

【周知について】

- 毎日が忙しく、ふるさと寄附金制度を使う余裕がないです。知って寄附しようかなと思って忘れてしまった。寄附制度があること、使われ方などを小まめにコンスタントに周知したら良いかと思います。
- 内容は悪く無いが話題性がない。地域ブランドバリューがあるのに、話題にならないのは何故かをアンケート調査すべき。
- ふるさと寄附金についての広報を粘り強く、多方面に行うことが求められる。

【魅力を感じない】

- 他の自治体と返礼品を比べると魅力的なものが無い。
- 「魅力」を感じない。
- 鎌倉の魅力を伝えるものがないので、残念です。
- 返礼品が高価なものが多く、交換率が悪い。
- 遅すぎる。今まで何をやっていたの。鎌倉市民が市街の地域にふるさと寄附金をした分、鎌倉市の収入が減るのは分かっていたはず。鎌倉出身者で市街に住んでいて鎌倉市へふるさと寄附金をする人は少ないのでは。今の返礼品は寄附しようと思わない。もう一度最初からやり直し！魅力ある・話題になる返礼品を。

【ふるさと寄附金という制度自体に反対】

- 今のような景品狙いのふるさと納税はすぐに撤廃すべき。意味がない。
- こういう制度を廃止するように市は行動すべきである。
- 制度自体に反対なので、意見はない。納税が個人の考え・嗜好に左右されるような制度は、やってはいけない。

- (利用している立場で言うことではないが) 鎌倉市に限らず、そもそもふるさと納税制度自体の趣旨と実運用との乖離が課題であろう。実運用は、モノがもらえるから寄附をする、ということになってしまっており、ただでさえ寄附行動への意識が低い日本人に、さらに誤った価値観を植えつけているのではないか。
- 市役所の皆さんの高い人件費をはじめ、制度の運営にかかるコストが不明で、この事業が財源的な意味を持つとは考えにくい。
- 自治体が寄附を集めるとか物を買るとかいう場合、コスト意識のなさが気になる。民間企業であれば、人件費・交通費等の販売管理費を見込んで採算を考え、数年にわたってプラスになることしかやらない。鎌倉駅トイレの寄附金箱もそうしたコストを考えたときに採算がとれていないのではないかと思う。鎌倉市にはそうした採算を検討できるプロがいないのだろうと思う。そうした中、他の自治体を競うようにして返礼品を豪華にしたり、広告宣伝費をかけたりすることには断固反対。素人が金儲けに手を出せば必ず火傷をして終わる。
- 鎌倉市にふるさと納税制度がどうしても必要なのか、それ以外にしないといけないことはないのかという疑問があります。
- 鎌倉市は便乗する必要はない。行政サービスを向上することが第一。
- 寄附だけの収支は約3億円の赤字であり、これを改善する必要がある。寄附者への魅力、つまりは返礼品の魅力と寄附の簡便さを高めるべきである。また、納税者である鎌倉市民が納税分のメリットを身近に感じなければ、市外への寄附を少なくすることはできないであろう。納税者のための市政をもっと推し進め、古都鎌倉のブランドだけでなく、市政が市民の魅力になれば、市外から人が流入し税収も上がると考える。寄附の使い道だけでなく、税収に対する市政の質の問題と考えるべき。
- 資金管理と支出実態が良く判らない。税収とは別管理して透明性をもって収支報告すべし。また、市としての当寄附金制度はマイナーなものであって、もっと別の税収以外の財源確保方法を考えるべきと思う。
- 寄附するのであればふるさと納税は使いません。

【その他】

- ふるさとの定義(範囲)などを明確に。
- 寄附金を増やすための企画セクションが市役所の各部門に対しもっと地域住民のために働け、と旗を振って指揮命令することが必要だと思います。
- 市外へ通う給与所得者から見れば、鎌倉は中心地の自営業に都合のいいところだと思います。休みの日には渋滞で車が使いにくく、鎌倉中心地へ行こうにも市外からの人と何ら変わらない苦勞、コストがかかります。ごみ袋も有料、火事は市全体で週に一回程度、救急車は呼んだこともない。鎌倉市民のメリットとは何でしょうか？ コアの古い人の声ばかり大きいのでは？ 藤沢市や横浜市の方が、人口も商業売上も増えることに不思議はありません。鎌倉市への転入は特に若いサラリーマンには勧められないし、よそ者はよそらしく離れて暮らすほうがよいと思います。そう思うサラリーマンが多いのではないのでしょうか。ふるさと納税が転出超過なのは当然です。
- 鎌倉市民にふるさと納税をアピールしないことをお願いします(昨年も広報かまくらに出ていましたが、鎌倉市民の友人たちの間でも、市民に配るものにわざわざ大きく宣伝するなんて損失でしかない、と話題になっていました)。
- 昨年「ふるさと納税」を使い始めたが、(誤った情報かも知れないが)居住する自治体への寄附が出来ないと思っていたこと、そもそも鎌倉市が「ふるさと納税」を受け付けていることを知らなかったこと、が大きい。今年からは鎌倉市に寄附したい。
- 寄附金制度をよく理解していないので、改善提案ができない。
- いくら寄附したら返礼品が貰えるのか、その差額を教えてください。
- 返礼品目当てもどうかと思いますが、魅力的です。私は、所得税を例えば、鎌倉芸術館に寄附するとか、指定した公立保育園に寄附するとか、できるといいと思います。
- 最低寄附金額が高い。
- 全体に広まってきて、出身地(多くは地方)への支援という一般認識がある。どちらかというと大都市近郊型の鎌倉市が取り組むには、地方とは違うことのアピールが必要と考えます。
- 岡田議員が旗振りをして頑張ってください形跡はありますが、結果は惨憺たる状況ですね。役所内での若手中心の活動も結構なのですが、そもそも税収が減ってしまった事実を幹部職員はどう捉えているのでしょうか。その危機感のなさが最大の原因だと思いますが、汗を流した若手の皆さんはどうお感じになりますか？「頑張ったけどだめでした」が通じる時代ではありません。イチから考え直すべきではないですか？
- 返礼品は他自治体でも行っているのに、過当競争になりがち。民間企業でいうと、価格競争に陥ってデフレスパイラルに陥るようなもの。「モノ」に依存するのではなく、寄附をすることで社会貢献になるという意識を高めて寄附を増やすのが鎌倉らしい。

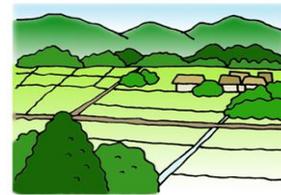
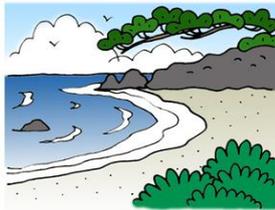
- 寄附してもちゃんと還元されるのか正直、不安です。寄附したらきちんと市民へ明確に提示して欲しいと思います。
- 鎌倉市を訪れる市外や外国の方が気楽にできる（市役所が稼働していない休日、時間外も含め）場所と方法をご考慮ください。
- 手続きが簡単なことが第一と思う。
- ふるさと寄附金制度は、返礼品競争となっている感があり、違和感を感じている。残念ながら、鎌倉市の地域特産物は魅力が薄く、物で引き寄せるのは難しいのではないかと思います。



【ふるさと寄附金推進課より】

今回のアンケートでは、我々が目指す方向と同一のご意見をいただくことができました。

やはり、PR活動や返礼品の充実の必要性を回答していただいたので、今後も制度の充実に努めていきたいと考えております。ふるさと寄附金の窓口の充実を図るため、11月21日から執務室が1階に移動し、市民の皆さまに制度の説明や返礼品の一部を展示できる体制を整えたので、ご覧いただければ幸いです。今回は、貴重なご意見をありがとうございました。



鎌倉市 経営企画部 秘書広報課 広報広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467 (23) 3000 内線 2506

FAX 0467 (23) 6505

e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp